

小児予防歯科ってなあに？

日本小児歯科学会では、3歳までにむし歯がある子どもは大人の歯に生え変わってもむし歯になる可能性が高いと言われています。

乳歯や生えたばかりの奥歯は未成熟でむし歯になりやすくむし歯の進行も早いので、あっという間に歯が痛くなってご飯がおいしく食べられなくなります。



むし歯になってしまうと歯医者に来て治療をしなければなりません。歯医者の治療は多くの子どものとって辛く苦しいもので、治療に協力してくれない子どもはぐるぐる巻きに抑えつけられて治療をしなければならないこともあります。

「そんな辛い思いを子どもにして欲しくない！」

お母さんがそう思う気持ちは歯医者にいる私たちにとっても同じです。子どもたちには「歯医者は私たちの歯をむし歯から守ってくれる良いところなんだ！」と認識してもらい、歯医者に来て笑顔で帰っていただきたいと強く願っています。



私たちが理想としていること、それは

ちだ歯科の周りにいる子どもたちのむし歯を0にする！

そのために必要なのが「小児予防歯科」です。



1カ月に一回歯医者に来て お口の中をきれいに

お母さんが毎日一生懸命お子さんの歯ブラシをしても完璧に磨くことは難しく、磨き残しからむし歯になってしまうことが多くあります。プロフェッショナルの歯磨きを月一回行うことでむし歯になるリスクを最大限にへらすことができます。また来院される度にそれぞれの子どもにあった歯磨きの仕方やおやつの上質な食べ方についてのアドバイスをさせていただくことでご家庭でもむし歯を予防することが可能です。

※定期健診時にはハブラシをご持参ください。

むし歯の早期発見・早期治療と シーラント（溝埋め）

気づきにくい小さなむし歯も1カ月に1回チェックすることで早期に見つけることができ、小さなむし歯なら麻酔をしないですぐに治すこともできます。また乳歯や生えたての大人の奥歯は未成熟で溝が深く汚れが歯ブラシでは届かないためむし歯になってしまいます。それを未然に防ぐことができる治療のことをシーラント（溝埋め）といいます。



小児予防歯科で大事な 3つのこと

フッ素を定期的に塗り むし歯になりにくい歯をつくる

WHO（世界保健機関）で最もむし歯を防ぐための有効な手段として挙げられているのがフッ素です。3カ月に一回の濃度の濃いフッ素のジェルと1カ月に一回の濃度の薄いフッ素入り歯磨き粉を用いることで、むし歯になるリスクがフッ素をしない歯に比べて約3分の1になると言われています。

この3つを継続的に行うことで子どもたちのお口の中のむし歯を0に、また大人になってからもむし歯が一本もないそんな理想に近づけることができます。

歯は一生使う大切な身体の一部です。生涯自分の歯でおいしくご飯を食べられるそんな素敵な人生、子どもたちの輝かしい未来を私たちはサポートしていきます。

ちだ歯科クリニック

札幌市北区屯田5条10丁目8-1 / TEL : 011-774-6551
月・火・水・金 9:30~19:00(お昼休み 13:00~14:00) / 土 9:30~13:00
木・日・祝 休診